

東広島って？広島大学って？

まずは東広島市と広島大学について説明します。

東広島市



面積……………635.32km²
人口……………178,092人
大学の数……………4つ
酒蔵の数……………10社
製造品出荷額…1兆1,321億円
最高気温……………36.0℃
最低気温……………-5.5℃
平均気温……………13.9℃(2006年)



東広島は山も海もある大きな市です。言わずと知れた酒造の街ですが工業も発達しており、製造品出荷額は県下第3位です。田舎だとよく言われる東広島ですが意外と発達しています。また、広大の他に3つの大学があることから学園都市とも呼ばれています。気候はやはり夏は暑く、冬は寒いです……。



広島大学



総面積……………約3.15km²
東広島キャンパス……………約2.50km²
生徒数……………15,757人
留学生……………57カ国842人
教職員数……………3,272人
学部……………11学部

都道府県別入学者数ランキング！

1位広島	755人	4位山口	144人
2位福岡	161人	5位愛媛	135人
3位兵庫	152人	6位岡山	132人

(平成20年度広島大学入学生)



広大の特徴といえば、何といっても広いこと！ 他学部で授業があるときの移動が大変という話はよく聞きます。また、生徒数と教職員数を合わせると約2万人、東広島市の人口の約10%にもなります。学部数は11学部もあり、その数は全国で2番目！ 広大が規模の大きな総合大学であることが分かりますね。入学者の出身県を見るとやはり広島県出身者が圧倒的に多いようです。
(参考：統計で見る東広島、広島大学ホームページ)

広島から東広島へ～広島大学移転の歴史～

移転に至るまで

かつて広大のキャンパスは広島市、福山市、竹原市に散在していました。当時、地方の国立大学の多くは同じような状態から出発しながらも、戦災復旧の意味も込め、キャンパスの統合・整理を完成させつつありました。広大はそれらの大学に後れを取っていました。

広大は、東千田キャンパスをメインキャンパス化する方針で整備が進められていましたが、東千田キャンパスの総面積は十一万平方メートルしかなく発展性に乏しいと批判されていました。

こんな中、大学紛争が発生。校舎封鎖を経験することで、改めて大学改革が議論されました。こうしてキャンパス統合移転がスタートしました。

さっさと西条に決めたい？

キャンパス新設に際して、当時の学長であった飯島宗一さんは、十分に広い面積を確保したいと考えました。スローガンは「百万坪の新キャンパス」でした。他にも五日市、可部などが最終候補地として上がりましたが、交通の便や造成のしやすさに加えて、賀茂地区が早い段階から研究学園都市

の形成を意図していたことから西条に決定しました。

広大移転年表

移転開始！

1982年 工学部移転

この移転は下水処理場の建設が周辺住民の反対にあったことや工学部跡地処分の問題から大幅に遅れました。移転が完了した時は移転決定から実に十年の月日が経っていました。

移転に合わせて、路線バスの運行が始まりましたが、当初利用客は一台当たり五〜七人でガラガラでした。

1988年 生物生産学部および付属農場の移転

福山市から家畜や魚類なども運搬されました。

1989年 教育学部の移転

1991年 理学部の移転

1993年 総合科学部の移転

移転前の総科はとても狭く、教授ですら二人部屋であったり

しました。このように雑然としていたため、早期移転が学部の統一した意見としてまとまっていきました。

1994年 文学部の移転

四十万冊の図書の移送が困難を極めました。

1995年 法学部・経済学部の移転

図書館・大学教育研究センターの移転

移転完了！

このように、広大の移転は大学、移転先双方の人間を巻き込み長い時間をかけて進められた大プロジェクトでした。

参考文献 飛べ！フェニックス

いまむかし 広島大学今昔

ブドウ畑とぶどう池

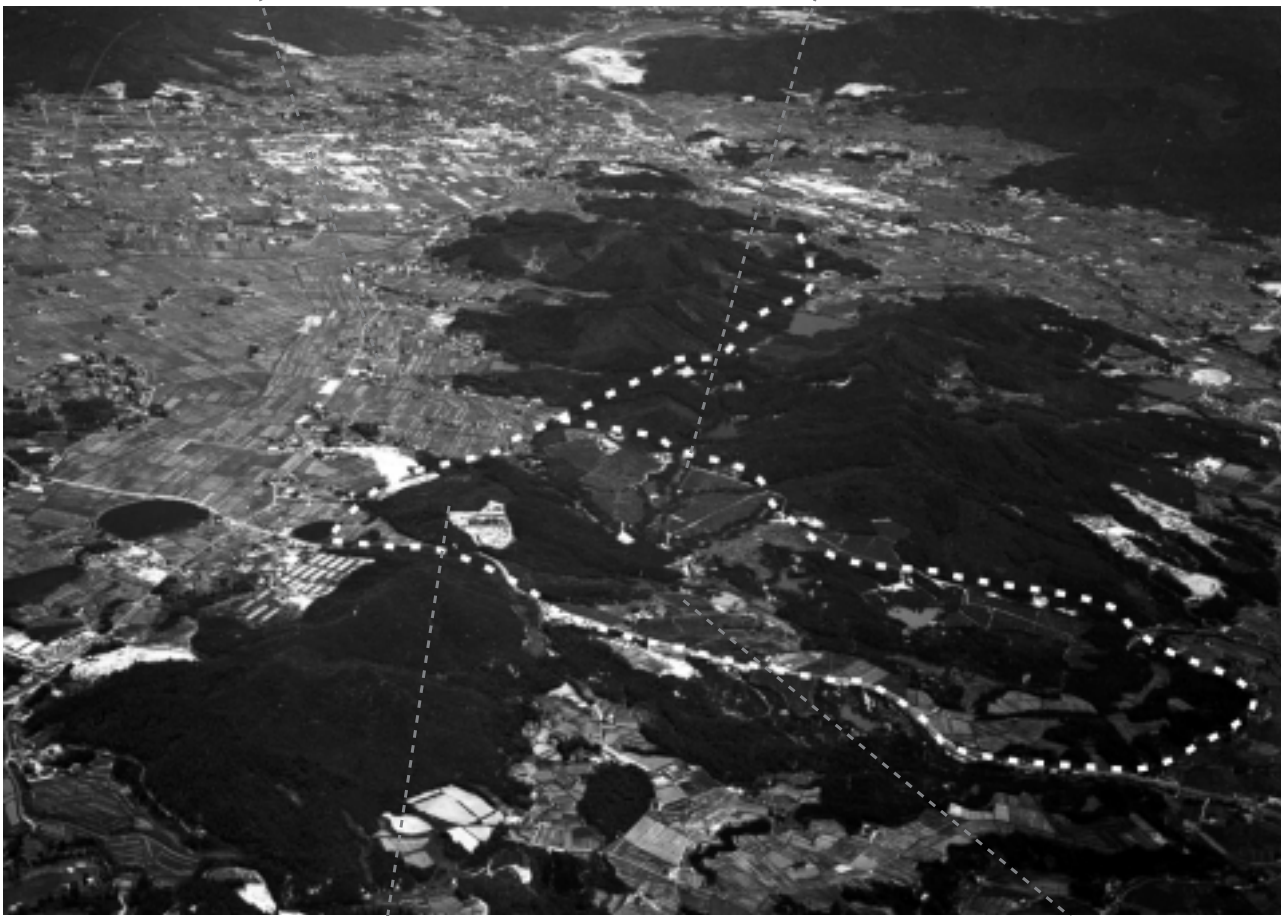
今の広大の敷地は、もともとはブドウ畑でした。実は当時の名残が今でもあるそうです。写真はブドウに水をやるためのパイプだったもの。ブドウ池のほとりにあるのを探してみてください。



下見学生街

大学が移転する以前の下見は田んぼが広がっていました。現在ではお店やアパートが建っていて、当時とは様変わりしていますね。
下見街道も「街道」とよぶには少し寂し過ぎるようです。

1975



総合科学部

総合科学部が移転したのは一九九三年で、八学中五番目の移転でした。ちなみに総合科学部の前身は教養部という名前だったそうです。

教育学部

教育学部は全学部で一番高いところにありますが、それは元々が小高い丘だったからです。左の写真と比べると分かります。



1982年

空から見よう

サイエンスパーク

「頭脳立地法」という法律をもとに、松下電器情報システム広島研究所や酒類総合研究所などの研究施設・企業が集まっています。

ブルーバール

西条駅から広大へとのびるブルーバール。この道路が完成したのは一九九四年。九七年には国土交通省の都市景観大賞に選ばれたそうです。山の間を通っているので、自転車には少ししんどい道です。

2004



角協調整池

広大移転によって埋め立てられたため池の水量の補填のために作られた池のようです。下部を堤防で仕切って水を貯めています。ここにはカワセミも生息しています。

写真で見ると、広大はもろろんのこと広大周辺も大きく変わっていることが分かります。

これらのカラー写真は総合博物館にありますのでぜひ足を運んでみてください。

次は総科棟ができた頃の飛翔から当時の学生の生活を探ります。

移転当時の総科生の暮らし

上空からの写真を見ると、広大移転当初と今とは様子が様変わりしていることが分かります。では、実際に暮らしていた当時の大学生はどのような生活を送っていたのでしょうか？飛翔のバックナンバーを元にまとめました。

下宿について

下宿についてですが、当時は部屋数が圧倒的に足りなかったようです。総科移転に伴って一万人ほどの学生が西条に移ることになりました。しかし、総科移転前の部屋数は四千六百四十一室しかありませんでした。アパート建設の呼びかけも行われていたそうです。当時の部屋はエアコン付きの方が少数派で、家賃も条件は別にしても市内の物件と同レベルでした。

お店について

キャンパス周辺には田口のセブンイレブン、下見のポプラ、ショージくらいしかなく、それまで地元住民だけにしか利用されていなかった為に寂しい状況だったようです。当時の学生は、西条駅周辺の市街地や二号線沿いの食堂、飲み屋を頼りにしていたそうです。

アルバイトについて

大学周辺にあるお店は限られていたので、西条でバイトを見つけるのはかなり難しかったです。西条に移り住んできても市内のバイトをそのままやり続ける人が多かったようです。

西条生活記

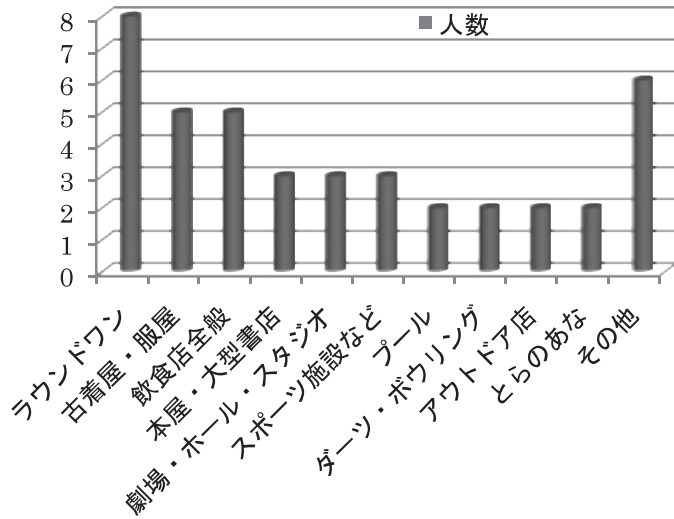
飛翔四十二号には、教育学部（総科より先に移転していた）の人が移転してくる総科生に向けて書かれた「西条生活記」という記事がありましたので、一部抜粋します。

……西条に居を構えると、バイトに困る、足が不可欠、家がない、家賃が高い、店がない、遊べない、夏暑く冬は寒くて死ぬ、というような情報はもう既に皆さんにも届いているでしょう。全て疑いのない事実です。

しかし、一方で広島市内では決して得ることのできないものがあります。苦し紛れに言っているわけではありませんが、それは自然です。朝の爽やかさはこの上なく、心が軽くなります。……中略。要は、西条での生活をいかに楽しむかということでしょう。

広大生二十八人に、お店とアルバイトに関する二つの質問をしてみました。

1. 西条にどんな店が欲しい？ (自由回答・複数回答可)



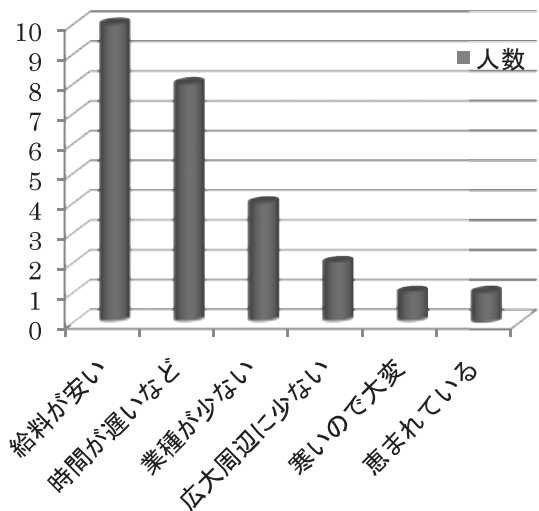
一番多かったのは「ラウンドワン」。私は田舎育ちなので、恥ずかしながらラウンドワンが何なのか知りませんでした。ホームページの説明では「スポーツからリラクゼーションまで複合エンターテインメント空間」だそうです。今の広大生は、遊ぶ場所や体を動かす場所を求めているようです。それに続いて多かったのが、古着屋・服屋と軽食屋やカフェなどの飲食店でした。

今回のアンケートの回答から、少数派の意見がたくさんあるというが分かりました。好きなものは人それぞれなので、人の少ない西条ではそれらの要望に全部応えることができないのだと思います。

2. 西条のアルバイトについてどう思いますか？ (自由回答・複数回答可)

給料と時間帯に関する不満が多くを占めました。広島市内に比べると確かに安いですし、飲み屋やコンビニのバイトが多いので時間帯も遅

いものが多いですね。



これら二つの質問の回答には都会から離れていることから来る不満が多くありました。ただし移転当初のようにスーパがなくて困るようなことはないし、バイト自体がなくて困っているわけではないようです。そのような点ではぜひと改善されてきているのでしょうか。

現在の総科生の暮らし

下見学生街はこうして生まれた！



田んぼだった下見がどうやって学生街になったのか説明するよ！

市街化区域と市街化調整区域

西条に住む人なら、線が引かれたように田んぼと市街地が分かれていることに気付くはず。それには「市街化区域」と「市街化調整区域」というものが関係しています。簡単にいえば、「市街化区域」は建物を建ててもよい場所、「市街化調整区域」は建ててはいけない場所です。

以前は大学の北側にある「下見学生街」も市街化調整区域だったので建物を建てるのができませんでした。しかし、広大が移転してアパート不足が問題になると予想されたため、学生向けアパートに限り建設してよいことになりました。そうして当面の広大生向けアパートは確保できましたが、アパートの周りは田んぼ。お店はないし街灯もなく不便極まりなかったそうです。そこで登場した

のが「下見に学生街を作ろう」という計画です。

下見地区に学生街を！

学生街を作るといつてもそこは田んぼの中を細い農道が通っているだけの場所。無計画に建物を建てるのと細い道路の張りめぐらされた無秩序な街になってしまいません。

そこで市は、工学部の移転した翌年の昭和五十八年から大学前町の計画をスタートさせ、地元の人に呼びかけて「下見学生街整備推進協議会」が作られました。

下見学生街整備推進協議会って？

下見学生街整備推進協議会は、地元の人を中心となって作られた組織です。土地所有者への説明会をしたり、夜に集まって会議をし

たり、他の学園都市などに視察に行ったり、勉強会や講演会を開くなどの活動を行って、どのような学生街を作るのか構想を練っていったそうです。今の学生街は地元の人々の努力と協力によって作られたものなのです。

地区計画…まちづくりは計画的に

協議会の活動の成果は「地区計画」というものに盛り込まれました。地区計画とは、法的に定められた建築物などに関する地区独自のルールのことです。これにより、計画的に道路を作るとともに、ルールに則った良好なまちなみが作られました。

まずは道路を作ろう

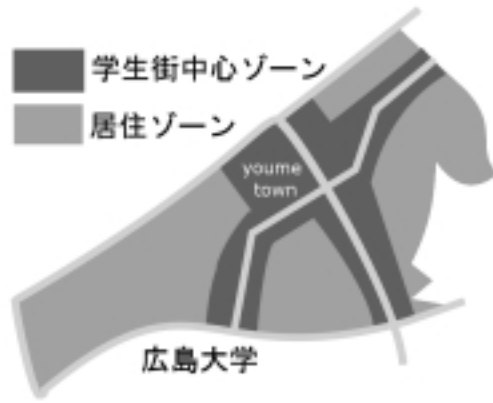
学生街を作るにあたって、まず地主が土地の一部を市に無償で提

供し、市が道路を整備して住宅や商業施設などを建てられるようにしました。

この方法は一般的な方法とは逆で、全国的にも珍しいそうです。計画的なまちづくりが短期間のうちに進みました。

学生街中心ゾーンと居住ゾーン

まちづくりをするにあたって、まず学生街を「学生街中心ゾーン」と「居住ゾーン」に分けました。学生街中心ゾーンはゆめタウンの南側と東側を走る道路の両サイド、居住ゾーンはそれ以外の部分です。この二つのゾーンそれぞれに、建物に関するルールを定めました。



学生街中心ゾーンのルール

- にぎわいのある商業ゾーンにするため、建物の用途を制限しています。
- 建てるはいけないもの
 - 原動機を使う工場（一部除く）
 - 営業用倉庫
 - ラブホテルなど
 - 建てる時の注意
 - 一階部分は専用住宅以外の利用とする。

居住ゾーンのルール

- 良い環境の住宅地ゾーンにするため、建物の用途や規模などを制限しています。
- 建てるはいけないもの
 - 工場
 - 麻雀屋、パチンコ屋など
 - 畜舎（一部除く）
 - ラブホテルなど
 - 建てる時の注意
 - 敷地面積百五十平方メートル以上、高さ十五メートル以下とする。



その他のルール

学生街の道路の両脇の建物は、道路から1.5メートル離して作らなければなりません。このルールは協議会の提案によって生まれたものです。その他にもいくつかルールがあります。

農住組合制度によるアパート

このようにして学生街づくりはスタートしましたが、学生向けアパートの建設はなかなか進みませ

んでした。その理由は、地主の多くは農家なので経営のノウハウもなく、多額の借金することに抵抗があったことと、商業施設などの建設が進まず、アパートに人が入るかどうかが不安だったからでした。

そこで考え出されたのが「農住制度」の活用です。これにより農協グループの全面的なバックアップを得て建てられたのがゆめタウンと広大の間にある学生マンション群です。このような努力により、アパートの建設は大きく進みました。

こうして地元と市の協力により計画的に作られてきた学生街ですが、当初の構想どおりに出来上がったのでしょうか？当時、下見学生街整備推進協議会の一員として活動していた山手さんにお話を伺いました。

取材協力

地域連携センター副所長

塚本 俊明先生

下見学生街整備推進協議会の活動

―山手さんは学生街整備推進協議会で当時どのような活動をされていましたか？

学生さんたちに優しい、楽しい、住みよい街ってどんな街？から暗中模索の中、下見学生街整備推進協議会が発足したんだよ。下見地域の世話方、県・市行政、商工会議所等々の多くの方々の熱い思いをこめ連日会合を開いたものだよ。なんせ初めてのことなので他の学生街に視察研修に行ったり、学識経験者を交え勉強会を開き、学生街構想図面も作成検討したものだよ。私も協議会の一員として、商業部会を担当し、便利で楽しい学生さんに愛される、商店街づくりを毎夜熱くたったよ。皆、一生懸命だったよ。

理想と現実の間で

―活動の中ではどのようなことが大変でしたか？

一つは、学生さんたちの生活様



地域の人の ホンネ 本音を

聞いてみよう！

式や実際に何を望んでいるのかが中々掴めなかったことだね。もう一つは、利益の問題。企業はボランティアじゃないから、商売をするには利益が出ないとやっていけないよね。だから学生さんが望んでいるものがあっても、その企業が入ってきて利益が上がるかどうかを計算すると、厳しいものがあったりする。理想的な姿はいっぱい描いたんだけど、そうやってだんだん現実味のある、現実にとぐうものに変化してきたんだ。

山手電機株式会社 代表取締役社長
東広島商工会議所 商業部会長
下見学生街整備推進協議会

山手 重三さん

―具体的にはどんな部分ですか？
そうだね、例えば商店街に小売店、つまり物をお店がなかなか定着しないのよ。
―学生街ならそういったお店が定着しそうですか？

最初は大学の移転で何万人もの人がやってくるわけだから、誰しもが期待したわけ。ところがなかなかそうはいかないよね。学生さんたちも親からの仕送りで生活していて働いているわけじゃないし、消費の形態が変わってネットや通信販売なんかで買われている。入学するときも地方で買ってきたり、先輩のお古を使うなどされている。学校の中には生協の売店があつて、大体そこでもかかえる。ちよつとしたものはイズミさん（ゆめタウン）に行けば大体揃う。

広島市内に大学があつたときは学校の周りにもお店があつたんだ。でもそれは街自体が大きいから一般のお客さんも来るからなのよ。西条の場合は中心市街地から離れているから、一般の人がわざわざ買いに来るケースが少ないわ

け。本当はユニクロさんみたいな
お店がずらっと並んでもいいはず
なんだろうけど、みなさん採算が
合わない部分があるんだろうね。

大手全国チェーンと 地域問題

—個人商店より大型チェーン店に
人が流れてしまうのでしょうか？

それもあるし、通販も多いん
じゃない？ われわれも通販を使
うからね（笑）。でも今はできる
だけ地元を使うようにしている
よ。そうしないと、よそから来た
お店がどんどん儲けて、それを本
部に持って帰ってしまう。

でもお祭りをやったり、川の掃
除をしたり、朝歩道に立つて子供
たちを送ったり、小学生にコイの
放流やいろいろな体験をしても
らったりとか、そういうことは地
元の小さな商売屋さんや地元の人
が一生懸命お金を払ってやってい
るわけ。

ところがよそから来た大手の人
は、店長さんであって社長さんで
はないから、経費をできるだけ使



わずに利益を上げて、それを本部
に持ち帰ってはじめて成績が上が
るといふようになっていく。だか
ら地域貢献をしようとしたりはし
ないわけ。この辺に一番の矛盾が
あると思う。

お客さんは車で大きな店に買い
物に行ってしまうから、何十年も
商売をしてきた路面店なんかはほ
とんどシャッターが下りているよ
うな状態になっている。だけどそ
ういうところに行く人たちを止め
られないよね。でも、ここに住ん
でいる人たちのお金を使って利益
を上げているんだから、ぜひその
利益の一部をこの地域のために役
立ててほしい。それを今、商工会
の会長さんと一生懸命言っている
んだけど、なかなかやってもらえ
ないね。

—理想と現実のギャップがあるん
ですね。

でも気持ちは確かにある。ここ
を豊かで安全で安心して生活でき
る地域にしたい。せつかくの四年
間だから、君たちにいい思い出を
作ってあげさせたい、いい環境の
中で勉強させてあげたい…って気

持ちはあるんだけど、理想と現実
のギャップの間が埋まらない。だ
からついイライラしてしまう時も
あるし、まずは自分の会社を潰さ
ないことを優先しないといけない
からね。

西条の今と昔

—このお店を始められたのはいつ
からですか？

西条での電気屋さんは今もう創業
八十周年になるけど、ここへ来て
からは一七年だね。以前は西条の
街の中にお店があつたんだけど、
ここに最後の勝負を賭けてきたわ
けよ。始めは今ゲーム屋さんがあ
るところまで電気屋さんだったん
だけど、全つ然売れなくて（笑）。
それで途中からゲーム屋さんには借
りてもらっているよ。

—長いですね。西条は今と昔でど
う変わりましたか？

地域の環境はすごく変わった
ね。田んぼがどんどんなくなつ
て、建物が立って、大きな道路が
できて…そういう環境にはものす
ごく変化があるね。それと、生活

様式が大きく変わったよ。昔はもっと人情深い人間関係があったんだけど、利便性が高くなっていくのに正比例して人間関係が希薄になってきているよ。私たちの学生時代には、近所の人や「今日カレー作ったから食べに来なさい！」って誘ってくださったり、市場に学生服を着て行ったら、「おい、お前ら頑張ってる勉強せいでしょー」なんて言ってる価値感してくれたり、漬物を一個おまけしてくれたりしたよ。今はだんだんそういうことがなくなってきているよね。それは寂しいなと思う。

広大生は地域の人の目にやう映る？

— 今とは全然違いますね。今の広大生についてはどう思われますか？

— 一つは夢がないなってことね。夢や目的、将来像をきちんと持っている人もいるんだと思うけど、この先どこに行くか分からないけどとちあえず勉強してみよう、そんな人が多いんじゃないかって生活

を見ていて思うよ。でも今は企業がいっぱい潰れるかわからないように、環境自体に夢が持てないからちよつとだけかわいそうだと思うよ。

子供たちが将来の夢を持てるような社会を作るのは大人の責任だと思ってるからね。その中で学生さん達が一生懸命勉強をしてまた社会に入ったら、次の子供たちにも夢を持たせてあげられるような社会環境を作る。今は今を何とかすることに必死で、その循環が切れてしまっていると思う。

それと、これは一つの現象だけど、うちの駐車場に黙って車を止めて学校に行ったり遊びに行ったりする学生さんがいるんだよね。うちは駐車場が少ないから、建物を半分借りてもらっているゲーム屋さんや「ゲームコーナー」にお客さんが来ても帰ってしまったり売上げが上がらない。だからごめん、山手さん。もし駐車場がないのなら出ていくか家賃を下げてくください。」というような交渉をしてるわけ。私たちだつて命かけて仕事をしているんだから、平気で車

を置いて行かずにひとこと声を掛けてほしい。そうすれば、例えば四時ぐらいまでなら止めてもいいよ、その代わり五時頃から人が増えるから四時になったら必ず出してね、つてこともできるわけ。だからもう少し人間関係ができていたら、もっと上手く地域とやっていけるのかなと思うね。でもこういう話をする機会がないじゃない。皆さんも勉強が忙しいだろうし私たちも仕事が忙しいから。

— こういう機会がないと地域の人と話す機会がありませんね。

— まだここがゆかた祭りをやっていた時は学生さんが打ち合わせに来て下さっていたのよ。そうするとお互いに何を考えているのか分かっていったわけ。ところがゆかた祭りをしようとすれば最低でも二百〜三百万掛かる。ちよつとしたことでもそれだけ掛かるから、だんだんお金が出なくなる。そうすると人間関係をつなぐ場所すらなくなってしまう。だから建物を建てたりするのも大切だけど、もつとそういう縁があればいいのと思うね。

我々も学生さんと親しくしないといけないし、学生さんももつとこの地域の人の溶け込もうよ、と思うね。そうすればもうちよつといい関係ができるかな。

— ありがとうございます。

記事担当 20生 吉田 聡

理想と現実をより近付けるため、広大生も地域の人も共に満足できる街にするために、もつとお互いのコミュニケーションを計っていくことが大切ですね。

今回の取材に際して、広大周辺の航空写真の手配をしていただいた総合科学博物館学芸員の清水則雄さん、下見学生街のまちづくりについて教えていただいた地域連携センターの塚本俊明先生、お忙しい中インタビューにに応じていただいた山手重三さん、ありがとうございました。

取材 20生 吉田 聡
20生 山崎 弦